

29【P2】Ⅱ-304

薬学生から見た漢方医学教育の意義

○金 成俊¹, 松本 司^{1,2}, 清原 寛章^{1,2}, 山田 陽城^{1,2}, 早崎 知幸¹, 村主 明彦¹, 花輪 壽彦¹(¹北里研・東医総研,²北里大・生命研)

【目的】「薬学部モデル・コアカリキュラム」が検討協議会でまとめられ、その中で「現代医療の中の生薬・漢方薬」として漢方医学についての教育が加えられた。その重要性の認識の中で、すでに多くの薬学部において漢方医学に関する講義が実施され始めている。今回当研究所より講師が派遣されている薬学部を対象に、漢方医学教育の現状について調査するとともに、薬学生の漢方医学に対する意識調査を行い、薬学部における漢方医学教育の意義について検討した結果を報告する。

【方法】漢方医学関連課目の講義時間、受講率、シラハ^スなどを比較した。また講義終了後、受講学生を対象として薬学部における漢方医学教育に関するアンケート調査を行なった。

【結果】アンケート結果：①講義内容についての満足度は約55%が満足、約34%が普通。②講義の必要性について約77%が必要。③国家試験への必要性は約46%が必要、約40%がどちらとも言えない。④卒業後の必要性は約71%が必要。⑤受講理由は約71%が漢方薬に興味と回答。

【考察】今回の調査から、多くの薬学生は臨床に役立つ漢方医学の知識を望んでいることが判明した。今後薬学部の漢方医学教育は選択から必修科目に、さらに国試への出題に関して検討されるべき課題であることが示唆された。